



## 文化祭で展示しました ☆☆☆☆☆☆☆

10月19日～20日、烏山区民センターにて開催された文化祭に参加しました。第7会議室で「憲法9条を愛する烏山地域の会」や「原水爆禁止烏山協議会」と一緒に展示を行いました。当会は、福島第一原発の汚染水の問題、住民の方々の健康問題・生活補償の問題、原子力規制委員会の再稼働優先の問題、再生可能エネルギーの問題を新聞記事により取り上げ掲示しました。



- ・時宜にかなった素晴らしい企画 (80代男性)
- ・いずれも大切なテーマ。特に原発問題は人類、地球の未来にかかわる人類的課題 (70代女性)
- ・どれもあまりにも大きすぎる大切なことばかりですね。資料が多く充実していると思います (40代女性)
- ・「さようなら原発」の展示わかりやすい展示でよかった。諸悪の根源日米安保を考えよう。 (70代男性)
- ・文字が多すぎるのでは？ (70代男性)
- ・原発問題は小泉元首相も再稼働反対を言い始めており、国民世論の一層の盛り上がり期待したい。 (60代男性)

- ・素晴らしい展示で見応えがありました。来年もよろしくお願ひします。 (70代女性)
- ・勉強とまでは及びませんが刺激になります。 (50代女性)

## 区議会に再稼働反対の陳情をしました

第3回定例区議会に「さようなら原発！世田谷の会」との共同で陳情しました。陳情内容は原発の再稼働をやめるよう国に求める意見書を区議会に提出してほしいという旨です。環境・エネルギー問題対策特別委員会に

付託され、11月15日に署名149筆を添え委員会にかけられました。10分間の趣旨説明のあと、約1時間に及ぶ各委員からの質問が続き、その後さらに約40分間委員会審査されました。結果は残念ながら不採択となりました。

同趣旨の意見書がだされている自治体もあり、今後とも行政に働きかける運動をすすめて行く予定です。不採択5 (自民・公明)、趣旨採択3 (共産、生活ネット、みんな・行)、継続3 (減税、世田谷、あらた)

## 映画と学習会を開催します

2013年12月8日 (日) 13:30～16:30  
烏山区民センター第4会議室  
「日本の原発と被曝労働者」  
資料代：200円

記録映画「原発はいま」(49分)を上映後、テーマについて話し合います。1982年に制作された映画ですが、数少ない貴重な記録映画です。今年最後の学習会になります。大勢の参加をお待ちしています。

## 会計報告

発足より1年が経過しました。  
会計の状況をご報告します。  
収入 230,811円  
資料代 9,900円

参加費 39,000円  
区補助金 15,000円  
募金 166,911円  
支出 136,702円  
講師謝礼 40,000円

DVD借用代 52,500円  
会場費、事務用品費 44,202円  
残高 94,109円

以上のおおりにです。募金等へのご協力ありがとうございました。

## 10. 13NO NUKES DAYに参加して

10月13日の、NO NUKES DAYは首都圏反原発連合主催、さようなら原発1000万人アクション、原発をなくす全国連絡会の三者共同で開催されました

日比谷公会堂～巨大デモまでが参加者1万9千人、国会前大集会までで延べで4万人の参加者が、脱原発反原発の思いでつどいました。

現在日本で稼働中の原発はゼロ。「再稼働反対！」の声が力強く響きました。

さようなら原発！鳥山地域の会は今回は自由参加でした。私は午後5時からの「国会前大集

会」に仲間4人と参加。国会議員や著名人そして原発立地地域の方々が次々に党派や立場を超えマイクを握り脱原発を訴えました。スピーチ



の合間には制服向上委員会の歌があったり（「おおスザンナ」の替え歌で「おおズサンナ」など）、「再稼働反対！」のコールがあったりと、熱気ある2時間を過ごしました。（M.A）

## 9. 15映画と講演会の感想文

前号で掲載しきれなかった9月15日の映画「バベルの塔」と講演の感想文の一部を掲載しましたのでご覧ください。

### 1. 映画についての感想

・今まで原発について知らなかった事を学びました。福島の高農家の方の話はTVのニュースで見た話より、とても当事者の考えがよく伝えてあると感じました。どこにも捨てられない使用済みのものの処理を考えると、これまで利用し楽をして過ごしてきた事を反省しています。

・メディアの問題を感じた。「CO2の問題と、核の問題はレベルが全く違う」という小出さんの発言が印象に残った。

・TVのニュースや報道番組より広く、深く、より詳しく知ることができ、私たちも加害者であること、被害者達が「東京も大停電になればいい。」と言った言葉にショックでした。アメリカインディアンの「この土地は未来の子ども達から借りている。」も、心に残りました。

・86年チェルノブイリの事故がおきた時になぜ自分達（日本）のこととして考えてゆけなかったのか…。もっと言えば原発を作ること自体なぜ受け入れてしまったのか…。考えていくと暗い気持ちになります。日本が、地球が、人類が住めない所にならないよう行動していくしかありません。

・東電がマニュアル通りの対応をして問題が大きくなったのははじめて聞いた事実でした。

・東京に住む私たちの責任も痛感しました。

・原発は事故が起こるもの、そして現在の人間の能力を超えるもの、従って、すぐにやめること。と考えました。

・学者の方々の話に加え、酪農家の人々、地域差別

のことを話していた女の人のインタビューにギクリとさせられました。

### 2. 講演会の感想

・福島の現実を改めて考える機会になりました。ニュースで知るより、事はずっと深刻なですね。メディアの伝え方にも問題があるように思いました。

・たいへんよかった。毎日ニュースに追われるばかりのところを、よく整理していただいた。

・いま原発は全部止まっているのに、電力が不足しているとか節電しろとかはほとんど聞いていない。にもかかわらず危険な原発を手放さないという政治的な仕組みについて今度は説明してほしい。

・伴先生は原発をいつやめるのが良いと考えているのか。もう少し突っ込んで良かったのでは？。被ばくはない方が良いというのが定説だが、線量の高い群馬県の施設、川場村での児童教育をやめるべき。原発コストのからくりが良くわかりました。本日はありがとうございました。

・福島原発の今の状態・問題点、これからの見通し等々、先生の説明は納得できるものだった。資料も分かりやすく、すばらしい講演会だったと思います。

・大変参考になりました。今までの宣伝にだまされて来た自分がひどく情けない思いで拝聴させて頂きました。

・講演からも原発はすぐにやめるものと思いました。

・前半の映画「バベルの塔」とひびき合せて人間の愚かさに絶望的な気持ちにもなったが、そんなひまはない。子どもを生んだ責任もある。美しい日本の国に生まれた縁もある。何とか少しでもまじな人間、国になるよう、考え、行動してゆきたい。毎日毎日ずっと汚染にかかわっている原発での作業員のことも忘れてはならないと思った。